

音楽文化事業に関するアンケート調査

回答の集計結果

2023年1月

一般社団法人日本音楽著作権協会

調査の概要

【実施期間】

2022年9月26日～同年11月25日

【目的】

クリエーター等への支援に関するニーズの把握

【対象者】

JASRACの会員・信託者以外のクリエーター等（主な対象者は次の①～④）

- ①クリエーター志望の学生
- ②その他のクリエーター志望者
- ③若手クリエーター
- ④クリエーターに関わる音楽関係者

【方法】

webアンケート

【記名の有無】

無記名

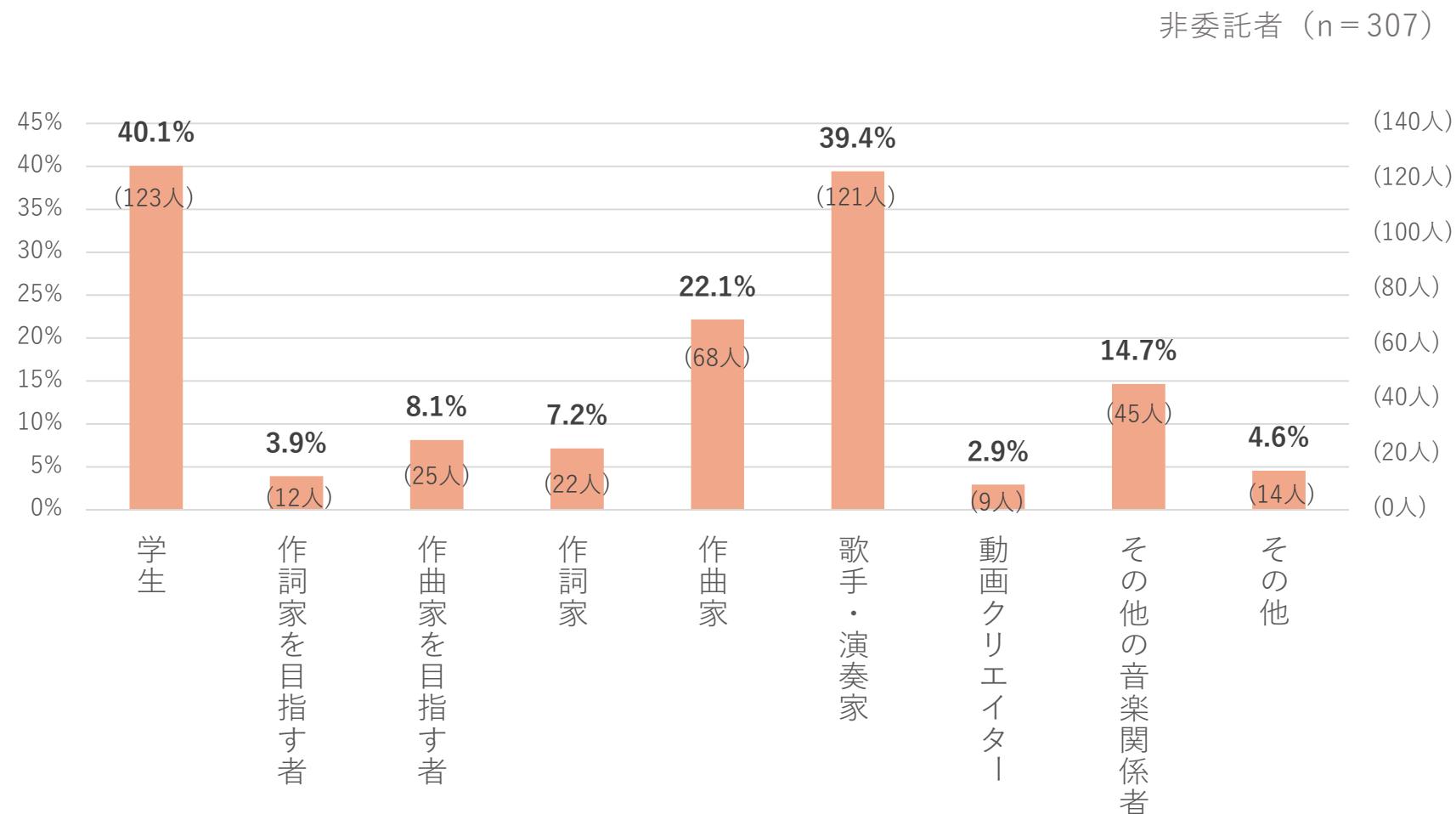
【設問数】

10問

【回答者数】

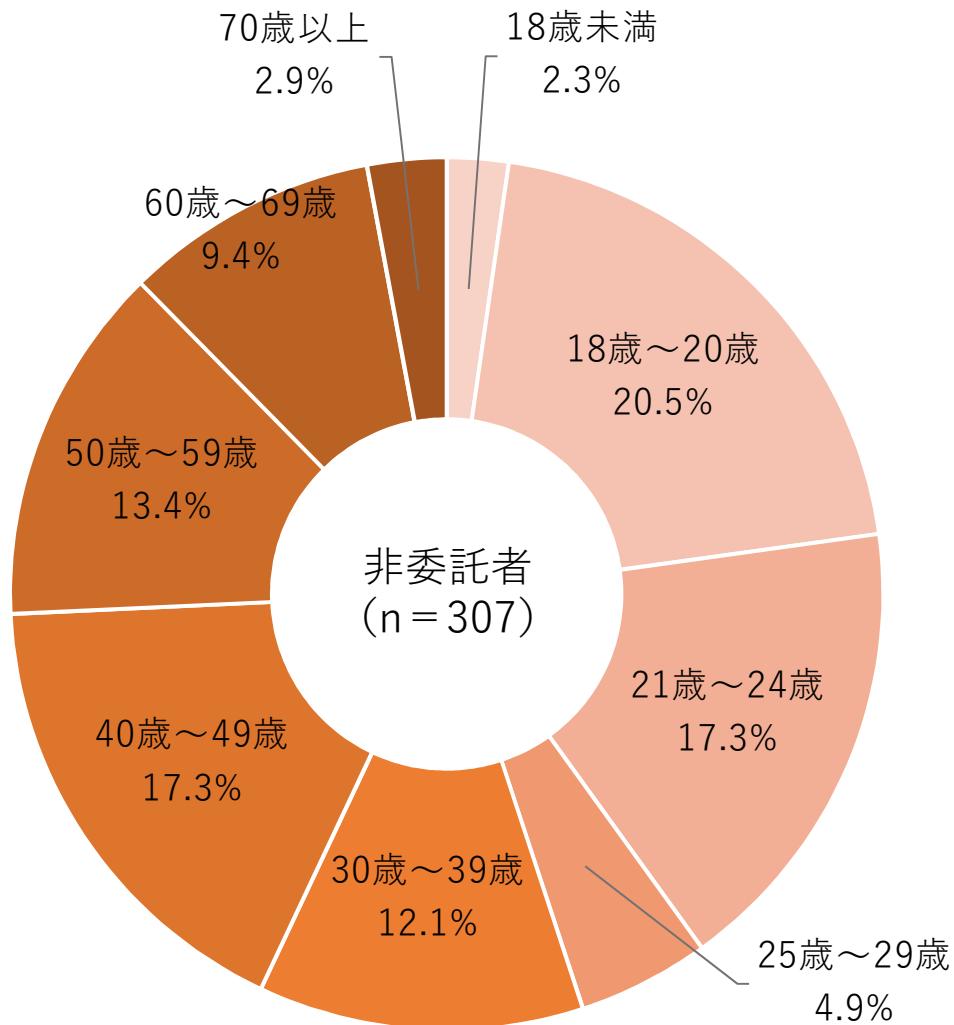
307人

Q1：あなたの現在の立場（職業）について、次の中から選択してください。【複数回答可】

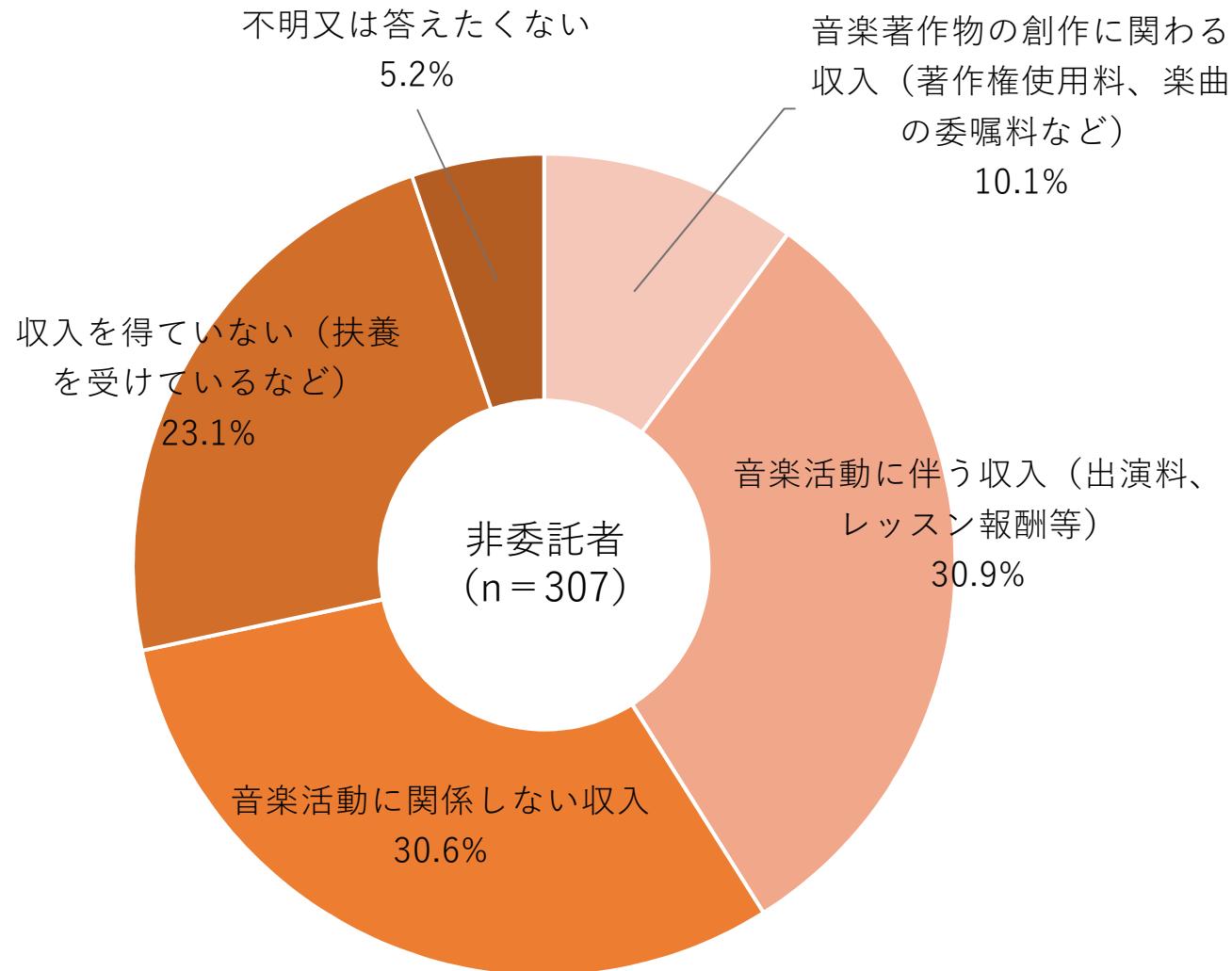


「その他」を選択した方の意見は別紙を参照

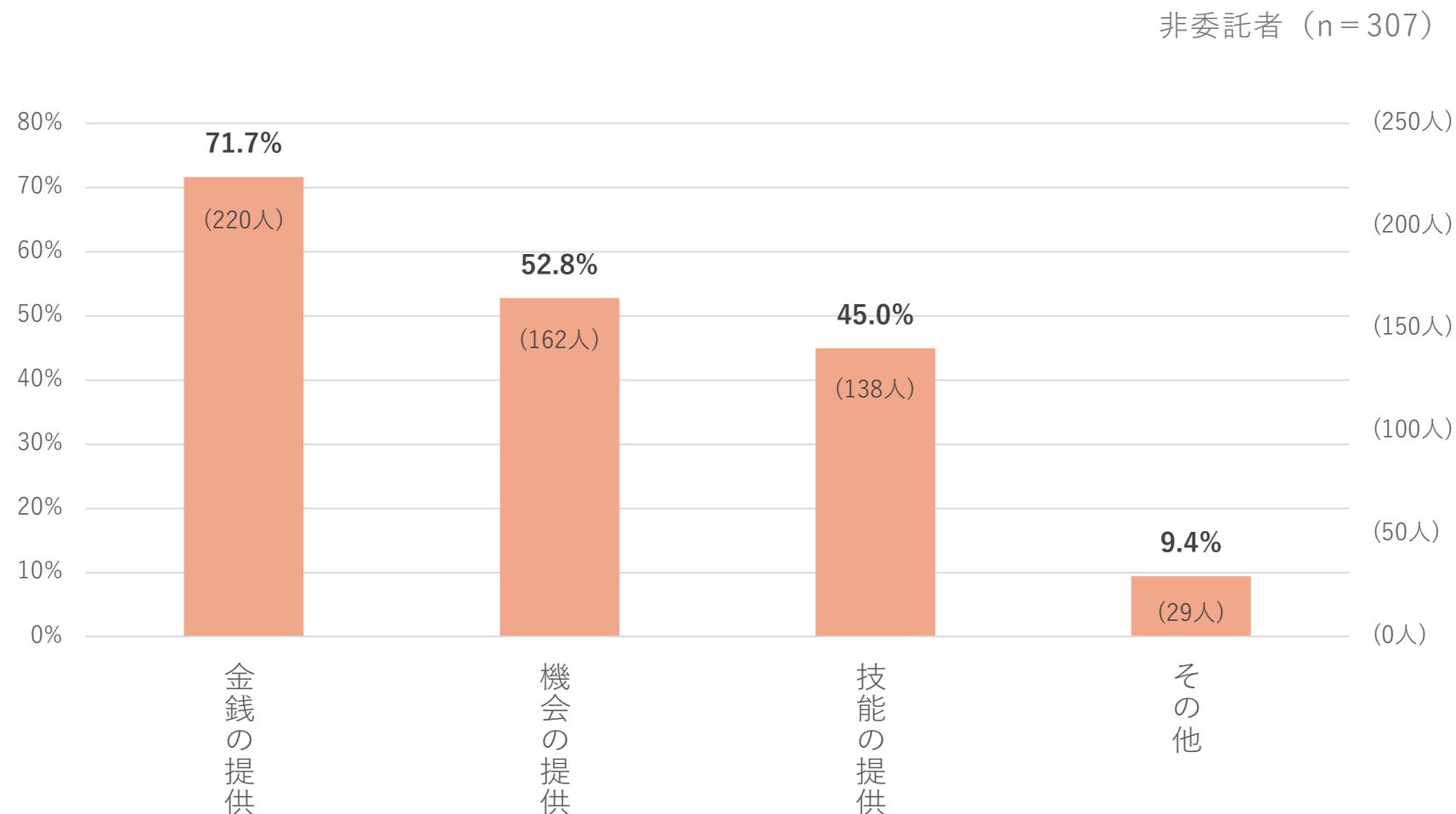
Q2：あなたの年齢を次の中から選択してください。



Q3：あなたの生活を支える主な収入源を次の中から選択してください。

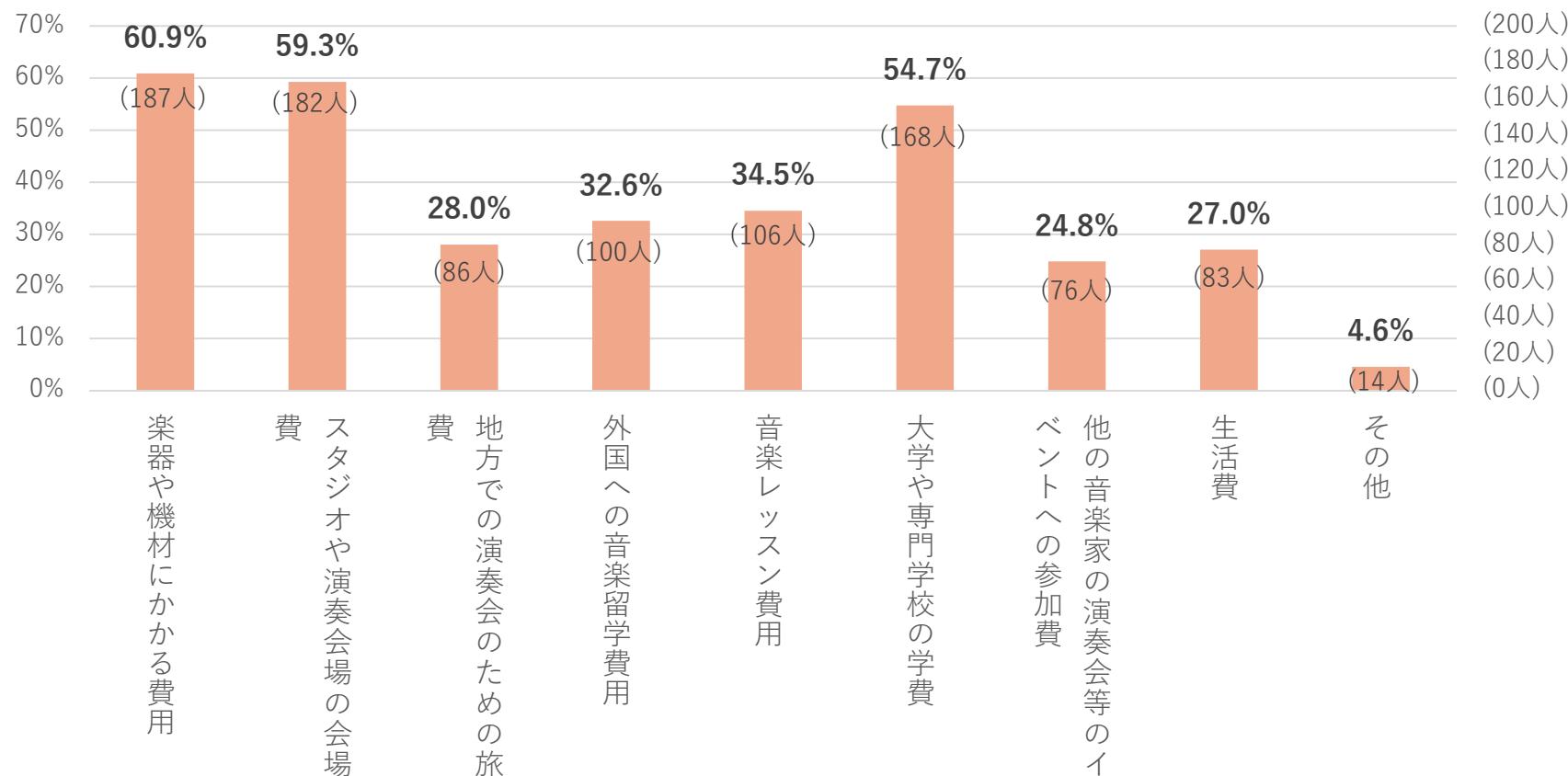


Q4-1：若手クリエーターやクリエーター志望者に必要だと考えられる支援の内容を次の
中から選択してください。【複数回答可】



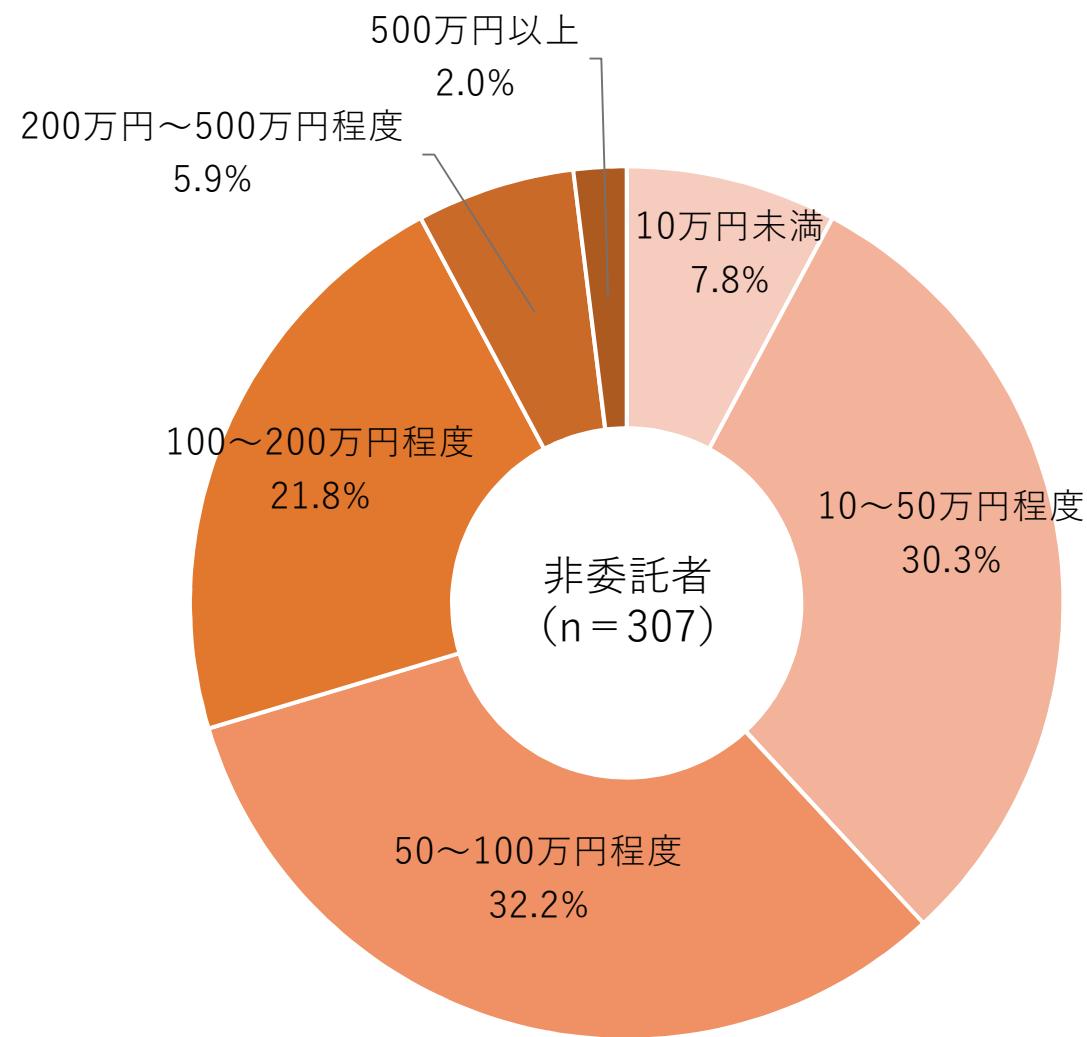
Q5-1：若手のクリエーターやクリエーター志望者への金銭的な支援を行う場合に適切だと考えられる使途（使い道）を次の中から選択してください。【複数回答可】

非委託者 (n = 307)

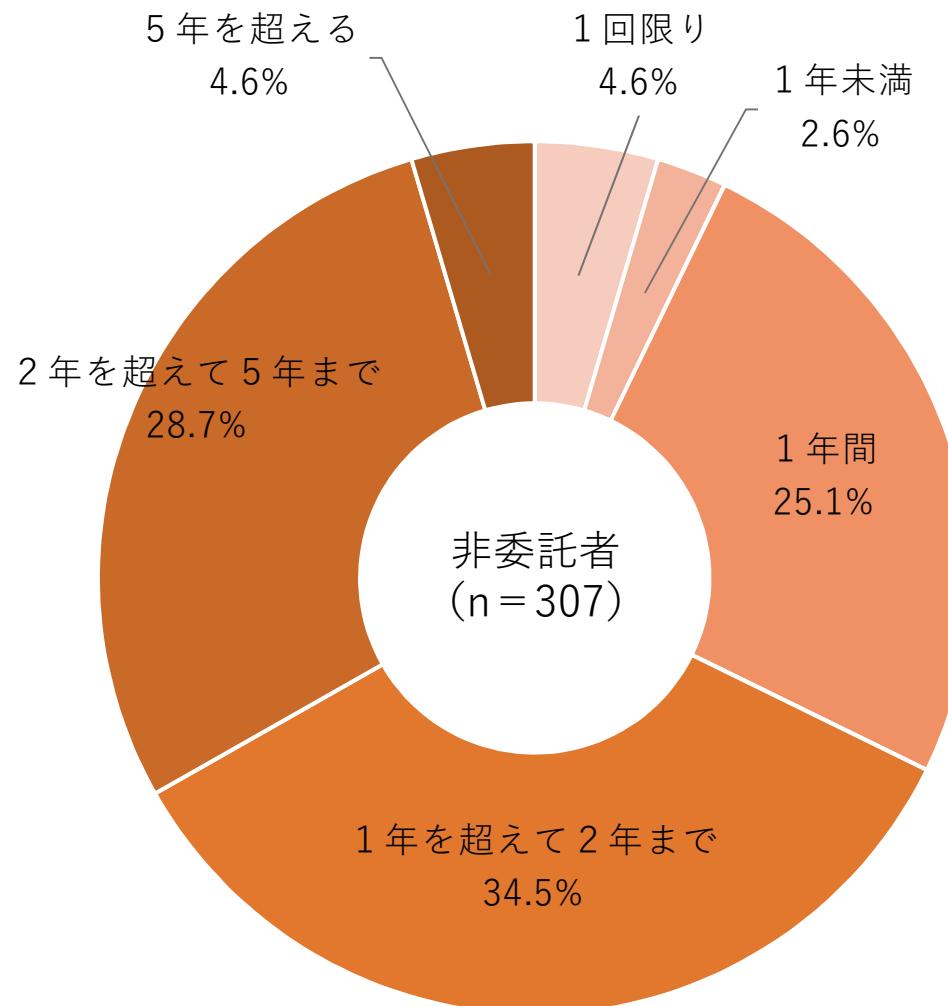


「その他」を選択した方の意見は別紙を参照

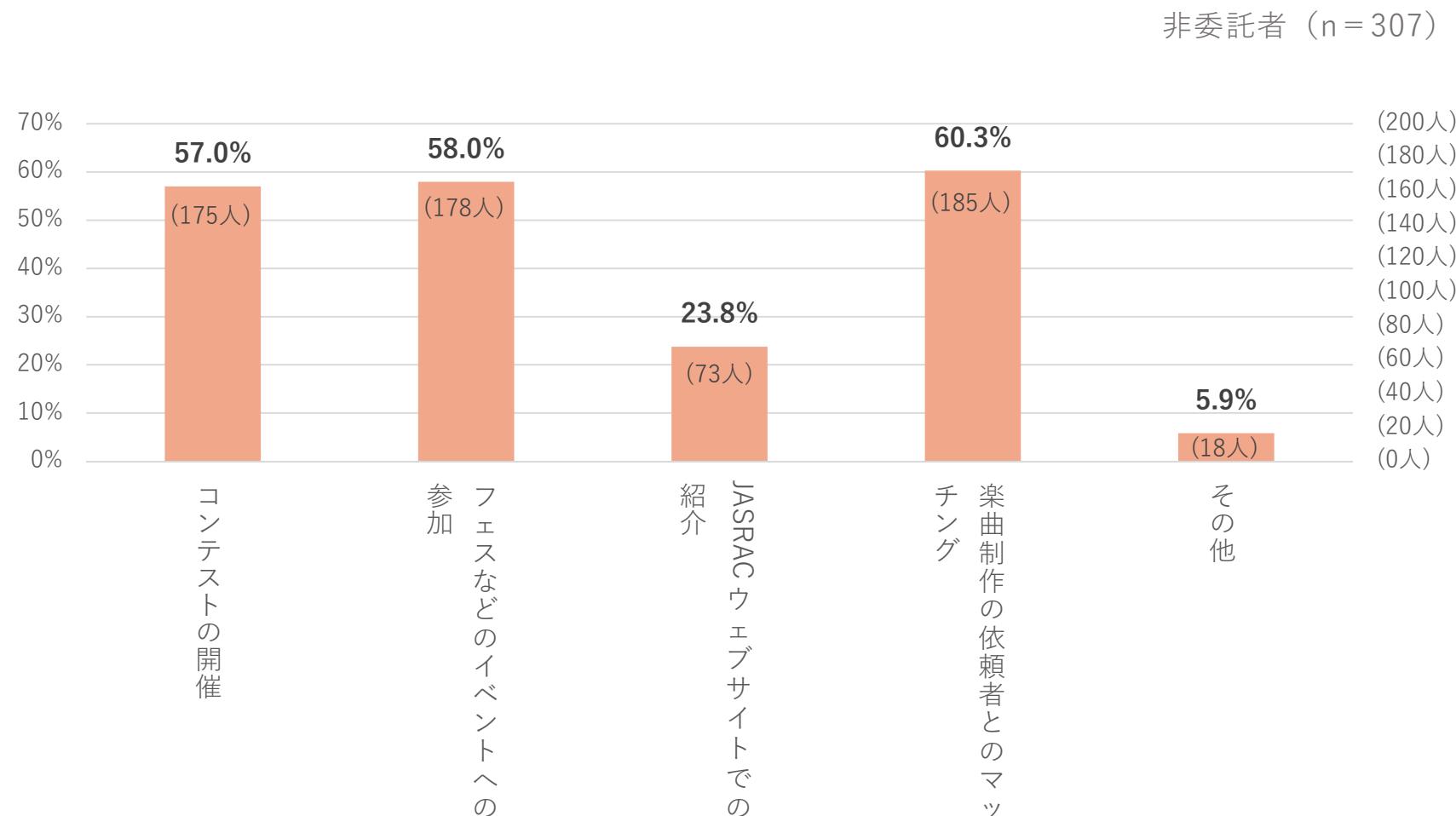
Q6 : Q5-1で選択した金銭的な支援について、1人あたり年間に必要だと考えられる金額を次の中から選択してください。



Q7：若手クリエーターやクリエーター志望者への金銭的な支援の期間として適切だと考えられるものを次の中から選択してください。

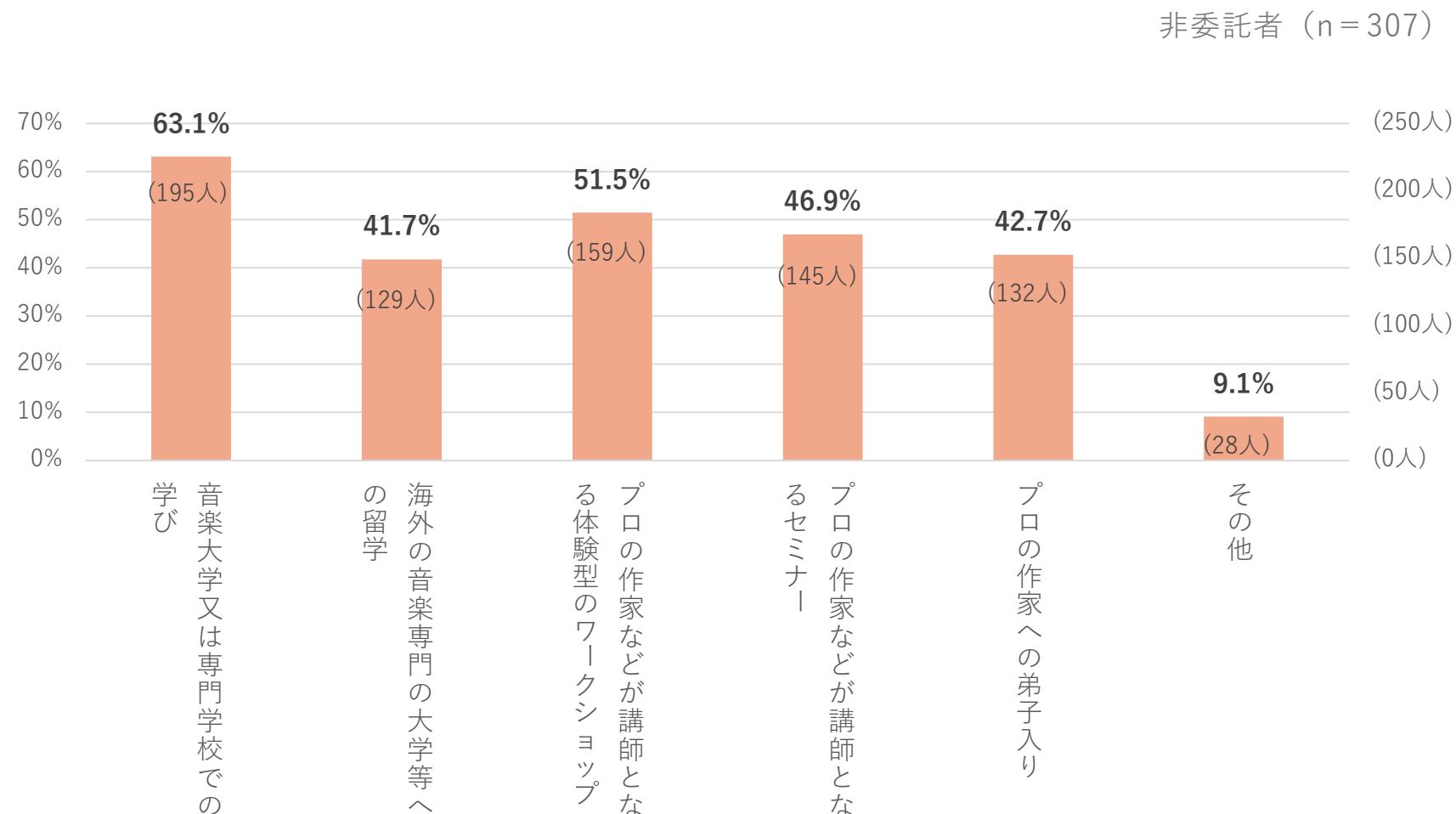


Q8-1：若手クリエーターやクリエーター志望者に作品発表の機会を提供する場合、適切だと考えられる方法を次の中から選択してください。【複数回答可】



「その他」を選択した方の意見は別紙を参照

Q9-1：音楽のクリエーターになるための知識や技能を身につける方法として、必要だと考えられる方法を次の中から選択してください。【複数回答可】



「その他」を選択した方の意見は別紙を参照

Q10：若手クリエーターやクリエーター志望者への支援に関するアイディアを自由にご記入ください。

別紙を参照

別紙

自由記述欄の意見

※自由記述欄に記載された意見を、内容ごとに分類した上で、掲載しています（順不同）。

Q4-2：Q4-1で「その他」を選択した方は、必要だと考えられる支援の内容をご記入ください。

（Q4-1：若手クリエーターやクリエーター志望者に必要だと考えられる支援の内容を次の中から選択してください。金銭の提供、機会の提供、技能の提供、その他）

(1) 活動支援に関すること

- 音楽家やプロデューサーと関わる機会を設けることも大切だと思う。
- 音楽性に沿うイベンターとのマッチングの機会
- 音楽業界の幅広い、実際の仕事の現場の体験。インターン的なもの。ワークショップだけでなく、実際の商業活動に即した体験は必須。音楽制作会社や、作家事務所、スタジオ、作曲家などから機会を募り、なんらかの形で体験してもらう。
- クリエーター育成機関を設けることができるよう、法人や団体に対しての支援。
- プロのクリエーターとの交流の場、活躍している人たちの作業内容、などがわかると興味が湧いてくるではないでしょうか？
- 音楽現場へのインターン制度のようなシステム
- 演奏会会場や、レコーディング施設の提供。
- より多くの音楽ファンや生来のファンに、曲とクリエーター自身を知ってもらえる機会の提供

- 演奏の場や活動の場
- 作品や演奏で収入を得るというたくさんの機会
- 音楽を発注する側（企業やプロジェクト）への音楽制作者や楽曲の提案の場

(2) 知識・ノウハウ支援に関すること

- クリエーターへの精神的な安心を提供する仕組み（カウンセリングや社会的福祉、保障）
- 音楽をビジネスとして生計を立てる為に必要なことやどういった道筋でプロの音楽家となりうるのか、どの程度の仕事をしたらどの程度の収入があるのかなどの明確な情報が学べる場の提供。
- 若い才能ある方を知りたくても知る機会が中々ないので、サンプルや資料などに簡単にアクセス出来るプラットフォームや、メール受信など出来ると良いなと思いました。
- 出版社との契約での注意点などのレクチャー
- 著作権の知識や、著作権との向き合い方、そして出版社やレコードレベルの存在意義と、それらを踏まえた上で継続的に音楽の仕事を続けられるよう財政的な面でのライフプランの提案をするような、そういったサポートも重要と考えます。
- 端的に申し上げますと「マネタイズの知識」だと思っております。自分の経験上、例えば「バンドマン」が、音楽(バンド)をやめる契機というのは「お金がないから」ということが多かったと感じております。特に、20代後半に成ると、将来のことを考え、結果「音楽では食べていけない」だから「きっぱりやめる(中途半端には続けたくない)」など、経済的理由(マネタイズ)が大きいと思っております。音楽を始める人は「多い」と感じておりますが、音楽を続ける人は「少ない」とも感じております。ですので「続けるための支援」として「経済的な知識・マネタイズの知識」も必要と感じております。

(3) 金銭支援のこと

- まずは資金がないと何も出来ません。制作その他に関わる経費の支援が一番嬉しいです。

(4) その他の支援のこと

- アーティストが、雇用や収入面などの悩みを相談できる相談機関。アーティスト用のハローワーク。
- サブスクやストリーミングで世界と比較しても遜色ない著作権料率。少なすぎる。しかも配信会社との契約内容は規定通りではなく公開されてないから不透明すぎる。
- 成果物に対してクライアントから満足な対価が支払われるという希望的な報道周知
- デビューや独立までの間に生活の柱にでき、なおかつ音楽活動に支障をきたさない仕事（音楽以外でもかまわない）の斡旋
- 多くの音楽関係者はレッスンを通じ収入を得て、生活しています。しかし十分な収入がある人は多くありません。来年からインボイス制度が導入予定で、手取り金額が減少する恐れがあります。支援の検討より前に、貴団体がレッスンでの著作権料を請求しないことが最も大切と考えます。
- 音楽の価値が変わって、制作費用の目安相場が迷子になっているため、制作費用の安定化。
- 社会における経済活動との幅広い連携。

※そのほか、支援は不要という趣旨の意見あり

Q5-2：Q5-1で「その他」を選択した方は、金銭的な支援を行う場合に適切だと考えられる金銭の使途（使い道）をご記入ください。

(Q5-1：若手のクリエーターやクリエーター志望者への金銭的な支援を行う場合に適切だと考えられる使途（使い道）を次の中から選択してください。楽器や機材にかかる費用、スタジオや演奏会場の会場費、地方での演奏会のための旅費、外国への音楽留学費用、音楽レッスン費用、大学や専門学校の学費、他の音楽家の演奏会等のイベントへの参加費、生活費、その他)

(1) 活動費のこと

- 練習場所のレンタル代、交通費
- 様々なプラグインを買うとき役に立つと思います。DAW の基本プラグインでは限界があるからほかの会社製品を買うのは必須だと思います。
- SNS などでの宣伝広告費
- 自宅で創作する場合においても、活動費の支給。
- 動画製作費用
- CD 製作費
- 制作に必要な作詞、作曲、歌唱の依頼費用、スタジオ費用、CD 制作費用など。作品作成宣伝に関する費用。

(2) 人件費のこと

なし

(3) 学びのこと

なし

(4) その他の使途

- 著作権使用料率を世界基準にするために世論を動かす金に使うべき。
- 支援は確かにありがたいのですが、それは目先のことなので、音楽の未来を考えると、制作対価の安定化（健全化）。
- 下記の Q において、10～50 万円を選択しました。その「期間」についてですが、例えば「音楽（バンド等含む）をやめる年齢」に多い「20 代後半ごろ」が良いかも知れないと感じております。また、本人が、その「支援期間を超えて」支援を求めるときは「貸付（返済義務あり）」のような支援でも良いかも知れないと思います。

※そのほか、支援は不要という趣旨の意見あり

Q8-2：Q8-1で「その他」を選択した方は、作品発表に関する機会の提供として、考えられる方法をご記入ください。

(8-1：若手クリエーターやクリエーター志望者に作品発表の機会を提供する場合、適切だと考えられる方法を次の中から選択してください。コンテストの開催、フェスなどのイベントへの参加、JASRAC ウェブサイトでの紹介、楽曲の委嘱依頼者とのマッチング、その他)

(1) コンテストのこと

- 一般の方に広く知ってもらうためにコンテストやフェスの周知（オンライン／オフライン問わず）のために宣伝にも力を入れる。

(2) インターネット配信のこと

- より音楽に特化した SNS の誕生
- Youtube、SNS 配信
- SNS などで配信イベントを実施し紹介
- 多くの人に全ての作品が平等に目にとまりやすいプラットフォーム
- クリエーターさんのサンプル音源や資料に簡単にアクセス出来るサイトやプラットフォーム、そして通知はメール受信など出来るとこちら側としては嬉しいです。

(3) プロモーションのこと

- 仕事につながるコンペの開催
- 映画の主題歌のタイアップなどの機会や発掘。
- 若手ではないクリエーター（ここでいうプロの作家）と、アーティストとのコラボ作品

- 色々な企業との「コラボ企画」例えば、avex や SME、楽器メーカー、アート(画家)とのコラボなど「枠を超えて」のコラボも「新たな音楽に対するニーズ」も発見されるかもしれませんと感じております。
- その架け橋（マッチング案）になる機会を作る。

(4) その他の方法

- ジャスラックのホームページを定期的にチェックしている人は周りに一人もいない。使用料を確認するときだけ。この中で一番無駄な労力だと思われるのはウェブサイトでの公開。
- 演奏の動画、作品の音源などを録音、録画する方法などに困ることも多いので、音響関係や機材、PC 作業などに詳しい人とのアクセスが出来るようなシステム（紹介してもらえるなど）があるといいと思います。

※そのほか、支援は不要という趣旨の意見あり

Q9-2：Q9-1で「その他」を選択した方は、知識や技能を身につけるために考えられる方法をご記入ください。

(Q9-1：音楽のクリエーターになるための知識や技能を身につける方法として、必要だと考えられる方法を次の中から選択してください。

音楽大学又は専門学校での学び、海外の音楽専門の大学等への留学、プロの作家などが講師となる体験型のワークショップ、プロの作家などが講師となるセミナー、プロの作家への弟子入り、その他)

(1) プロからの学び

- プロの音楽現場での手伝いなど、プロの緊張感や温度感を感じられるもの
- 実際の音楽の業務をこなすコミュニティに若者が入っていく仕組み、またそのコミュニティの中で若者が過酷な状況に置かれないようにする仕組み。
- 音楽に関する知識ばかり高まっても立ち行かないので、ビジネスとして音楽とどう向き合うかという経験や考え方を、プロから聞く機会を設ける。
- 自分の場合は、バンドをやってきたので、1番学べる環境は「現場（ライブハウス）」と感じておりますが、やはり、音楽学校が定番のように感じます。また、Watusi さんのような「私塾」や、ソニックアカデミーサロン（Sony）のような「サロン」なども良いと感じております。

(2) 教育機関の創設

なし

(3) 創作（現場）体験

- song camp
- 圧倒的に現場での経験とチャンスを与える事だと思います。

- プロやプロ関係なく一緒にコライティングなどして制作の体感をするのが最も近道だと思います。今は対面でなくネットやメールのやり取りだけでも十分に可能です。
- 現状の若手クリエーターを見ていると作曲やレコーディングの知識を既に十分備えている子が多く見受けられ、必要なのは現場の経験と、そういった若手クリエーターに大きなプロジェクトを任せ、成功体験を学ばせることが一番成長にとって重要だと考えます。
- 作った体験
- 実際の現場への立ち会い
- いまや、雑誌やネットでもプロの技を伝授とか、ネタバラシのようなことが横行している上に専門学校といってもやたらコース分けが細分化していてカリキュラムに沿った実践的とはとても思えない現在の専門学校のあり方ではなく、現場に出て即戦力になるような、本来の意味での専門知識を得られる場があったほうがいいと思う。

(4) インターネットの活用

- YouTube をみとけとけばいい。宝の山が腐るほどある。

(5) 独学

- 自分で数々の楽曲を聴いて勉強しかない。
- 自身の活動

(6) その他の方法

- 他の大学、他の門下と関わる機会（コンサート）を設ける。

- 著作権などの法律に詳しい専門家のセミナー
- 音楽が生まれる瞬間から CD および配信等で消費者に届くまでの一連を見届ける過程
- 広く分野を問わず、他の学術に対しても勉強し供用を持つことが大切だと思う。その中から新しいものが生まれると信じます。
- 発表の場がたくさんあること。
- 練習

Q10：若手クリエーターやクリエーター志望者への支援に関するアイディアを自由にご記入ください。

(1) 学びに関するこ

- 完璧に時代に取り残された日本の音楽。外国グローバリズム思考がたやすく入ってくるデジタル時代において我々大和民族が幸せを求める、掴み生き抜く本質を学ぶことをバックアップしてくれ、作品のクオリティーアップにつながる「海外音楽留学補助金制度」が必要。他者のフォローがあって希望するクオリティーで表現することが世に周知されやすくなる。1人でやってのけるのは人生の時間が少なく効率的ではない。レコーディングスタジオ費用、トレーニング費用、練習スタジオ費用たくさんの出費問題。練習や感性を磨く時間をなくす音楽以外の労働時間にほとんど時間を費やさねばならない現実を軽くすることです。生きていくのに精一杯で音楽の時間が増やせない。気持ち良い音楽、人を癒す音楽は鍛錬の上で成立する。勉強が優秀な国家において手っ取り早くお金を生み出す人間育成も良いですが、技術者、アーティストが尊い人にとって必要不可欠な仕事だと義務教育で教えるなど、平等な価値観を持ってもらえるような社会になってほしい。日本現代音楽の枠を超える時代の最先端の自由な表現が日本ができる「インディペンデントレベルに対する補助金制度」も作ってほしいです。
- 一番負担になることは学校の学費だと思います。作曲家や音響を目指す学生たちは学費のせいで大学に行けない場合も多いと思います。そして、プラグインに対しては YOUTUBE などで情報が多いから、それを参考にしてプラグイン費用を支援すればいいと思います。
- 自分の場合は、やはり「マネタイズの知識や環境」の支援が「音楽を続けるための支援」と感じております。経済的支援には、金額的・期間的な制限があると思いますので「自分で稼げる力（マネタイズに関する知識等）」を学べる環境（セミナーや動画）があると嬉しく思います。
- 基礎的な音楽の知識や技術の勉強の場（独学の人が多数）があるといいです。学校に入らなくてもオンラインや対面で。自分の楽曲に合ったプロの方に習えると良いです。
- 学費がとても高いので、数人のみの奨学金ではなく、複数人支援していただけるとありがたい。

- 今の日本は、医療大学の学費支援は変わってきてているが、音大も、一般の大学と比べ、高いため、もっと音大への支援が欲しい。

(2) 機会提供のこと

- オーディションや作品展示機会の増加
- 金銭面もそうだが、より実践的な支援が大切だと感じるので、発表や交流の機会がより多くなると良いと思う。
- クリエーター育成プロジェクトで、若手クリエーター数名を選出し、選ばれた人に毎月プロ作曲家のレッスンや制作の機会を支援する。
- SNS で話題の無名のアーティストや路上ライブで頑張っているアーティストをもっと多くの人に知ってもらうためにもフェスやイベントなどの出演を依頼するなどをし、そういったところから支援した方が良いと考えた。
- 宣伝や広告の代理業務やその出資、それぞれの音楽性に沿うイベントへの営業など。
- 絶対にデモ音源を聴いてもらえる環境が必要だと思います。例えば、ある程度実績のある JASRAC 会員数名が定期的に審査員（有償交代制）をやってその評価が高いクリエーターは目指すジャンルの関係者へ推薦してもらえる。などのシステムは若手の頃欲しかったです。
- コネクションのない人への支援の意味で。コネがなくても評価が受けられる環境は必要だと思いますが、今の音楽業界は、ある程度の実力と力のある人や団体との繋がりがあれば仕事が回るようになっているので、公正ではないかもしれませんのが支援になると思います。
- NHK のみんなのうた、合唱曲コンクール、などに JASRAC 枠を提供してもらい、新人枠を作ってもらい、R30 などの年齢制限を設けて新人を発掘してみては。
- 若手のうちは多くの人にまずみてもらう機会が欲しい。でもコンテストなどでハードルがあがったり、SNS などで人気がでないとライブすら開催できない。なによりも音楽好きな人へ、自分のライブが伝わる手段が欲しい。

- 音楽家がそもそもどの位収入が得られるものなのかや、どのように仕事をしていくのかという点が音楽等クリエイティブ職に関してはまだまだ情報がないと思うので、一発当ててなんとかなるだろう的な思考になりがちだと思うので、音楽家として着実に生計を立てる仕事のやり方や仕事とのマッチングができる機会があれば嬉しいと思う。
- 若い頃は本当にお金がないので、金銭的援助や、勉強ができる機会を作つてあげて欲しいと思います。日本と言う国は芸能やエンターテイメントの重要性、優先順位が低すぎるのも問題だと考えています。その為には、お金や知識がある機関が、色々な選択肢を与えてあげたらとても良いのではないかと思います。誰でも援助では無くプロが推薦した人物などが良いと思います。プロとの接点を作つてあげること、海外への進出これが大きな鍵の様な気がします。学校で学ぶことも大切ですが、即戦力になる為にプロの現場を間近で見せていく事も重要かと思います。
- アレンジャーには元となる(作詞家や作曲家の)曲を提供。作詞家や作曲家には、アレンジして実演する方の紹介。足りないところを補えれば良いかと思います。

(3) コンテストに関すること

- バンドや個人制作の作品のコンテスト。もちろんweb上の開催。組織票にならないような審査。投げ銭的な支援も良い。
- コンテストを頻繁に行い、登竜門を今までになく広げる。予算をそこに投入する。

(4) 金銭支援に関すること

- DAWにまつわる機材投資額が、若い世代にはハードルが高く、優秀なクリエーターの卵には支援が必要かと思います。
- 確定申告上の職業がクリエーター（音楽家など）であれば無条件で支援金を支給

(5) 活動支援に関するこ

- 大手企業と連携した制作プロジェクトをたくさん行う。
- 若手クリエーターの養成所、事務所などがあれば活躍できる場が増えて良いと思います。
- 専攻によって異なるが、特にオーボエやファゴットはリードや楽器そのものが脆い割に高額であり、作曲家であれば機械やソフト、楽器を揃えるのに多額の費用が必要である。一人一人の生活や現状に合わせた支援をいかに行えるのかが若手クリエーターの育成の肝となると思う。
- 法外な長時間労働(スタジオ勤務)や無報酬労働(楽曲コンペ等)を無くすために小さなスタジオや事務所でもそれらが起こらないよう監査、指導をする組織が必要であると考えます。
- 音楽関係のクリエーターだけではなく、他業種のクリエーターとの交流の場や仕事を発注できるようなシステムがあるといいなと思います。
- 金銭などの直接的支援では本質的、長期的なクリエーター育成の効果が薄いと思います。それよりも実際に沢山の作品を作り、経験を重ねるのが最も効率的です。それを可能にするのは一人で作り続けるのではなく、コライティングなどを通じて体感し、物を作りきる達成感と喜びを沢山感じるべきです。素晴らしい才能と情熱を持った若手クリエーターは常に大歓迎なのでそういった方々と、我々のような経験者を結び付けてくれるような媒体が出来るといいなと思いました。
- 技術はあるのに、なかなか不遇な環境にいる方に手を差し伸べるような支援があると良いなと思います。例えば100万円給付があったら、半年くらいのバイトや副業などせずに、音楽に集中してもらい、その間にビジネスとして回り出すよう努力してもらうなど…。
- ネット配信に関しての宣伝支援などがあれば良いとおもします。
- クリエーター達が交流を出来るような機会を持てればいいかと思います。
- レーベルなどの垣根を越えた立場からクリエーターとして実際にプロの現場での作品作りにコライトなどで参加できる環境や枠組みがあれば支援につながるだけでなく業界全体のクオリティー向上や風通しもよくなり育成にも反映されていくのでは。

- 私は、個人への支援よりも、クリエーターの所属する団体や法人への支援が正しいように思います。個人の場合は、どうしてもその支援を活かしきれない可能性のほうが高く感じますのと、そもそもスタートラインについては本人が四苦八苦することによって培われる土台の元で作られるものだと考えるからです。スタート段階から支援を受けてしまうと、根のない草になると思います。クリエイトには古いも若いも関係がなく、ずっと積み重ね続けるものだと思いますので、その長年の重みに耐えられるだけの底力をついた後に支援が受けられるのが良いのではないかと考えます。
- 音大学生の場合、授業の一環として自分の作った作品をプロのスタジオミュージシャンに正規のギャラを支払って演奏してもらい、実際の制作現場を体験するのは大事だと思う。
- 技能や知識はある程度は自力でもネット等からの情報で習得できる時代だと思います。さらに専門的で現場で必要になる知識（スコアリング、弦管アレンジ、制作の流れ等）を習得できるような支援があればと考えます。
- プロの音楽家による生演奏レコーディング体験等への補助やその楽曲のマーケティングを学ぶ機会をつくる。より安定した収益を得る為の、大企業から個人までの取り組みを考える会を専門家を交えてセミナーを行う。個人の活動に対してのエージェントの存在をしっかり作っていく。
- 若手クリエーター、クリエーター志望者に、今件は絞られていますが、現役クリエーターも大変なので、若手、志望者、現役が、（若手、志望者=フレッシュ、新感覚）と（現役=経験、技術）を、一緒に触発しあえる環境が、もっとあると相乗効果して良いと思います。
- 完成した作品提出数と比例して待遇を決めると、完成作品を作り上げる機会が出来て、結果、シーンの質の向上につながると考えます。
- YouTubeなどオンライン上でのコンテストやフェス、アニメーターや作家などのクリエーターとのコラボイベント、コンペなど
- とにかく、自分の得意分野を周りにアピールできる場があることと、あらゆる垣根を越えた交流が持てる場があることが一番大事で、そこで自分は何が表現できるのかということを真剣に探してみることに挑み続けるためにどうすればいいかを考えるしかない。支援だけしてもらってちょろい考えでクリエーターとは名ばかりの輩とは一線を画する何かを身につけなければならない。

- 師匠的な関わり合いから、その人の個性やチャンスを掴み伸ばす機会を提供しつつ、育てて行く事。また教える方は、昔は…ではなく現在の音楽環境で稼げる為のスキルなどを理解、共有する事が必要かと思います。
- 学費、セミナーの費用などの参加は、支援があるといいと思います。横の繋がりで拡がっていくことが多いかとも思うので、人の繋がりが持てると、刺激にもなると思います。
- コロナ禍という事もありますが日本経済が沈み始めてから、音楽を生業にすることは以前以上に難しくなりました。アルバイトをしながらでも音楽活動していくには、発表の場や学ぶ機会が必要です。ネット上での発信ではなく、プロの人に認めてもらい、それがさらに世の中に知られていくようなコンクールやイベントが必要かと思います。是非若いクリエーターが張り切って当座の目標となるようなイベントなどを企画運営していくのが良いと思います。老若男女問わず、クリエーターの発表の場があまりにも少ない気がします。
- ある程度知識が付いたら習うより体験だと思います。
- 海外というとすぐにバークリーなどの音楽大学に入ることを目的にするようですが、もっともっと海外の文化を学ぶ、経験を豊富にする、ということを目的に楽器持つて外へ出ることが必要だと思う。音楽大学なんて必要ない。経験、人間性の豊かさなどが音に繋がるのだから、同じような器用な音楽家を育てるのではなく、個性豊かな音楽家がどんどん産まれてほしいと願います。
- 課題をあたえてオリジナリティを重視したオーディションなどの発表の場と、同時により多くの関係者とのマッチングの機会の創出

(6) その他の意見

- 昔のようにお金を払わずに様々な作曲家の曲を演奏できるようにしてほしい。
- 長い目で見てほしい。そっと見守るつもりで支援してほしい。
- 確定申告や開業等の柔軟な相談窓口の開設
- 適正な報酬の確保。音楽が儲からないという認識を改善する。

- 日本的一大産業であるゲームの音楽が、業界の古い慣習からいまだに「買い取り契約が原則」となっている現状が、日本の職業作曲業への希望を奪っている。買取契約でなくともクライアントが音楽を使用する分には例外的に使用料を徴収しない旨を、JASRAC が組織的に企業側に周知し、作家側と企業側が win-win にできることをマスメディアを通じて周知する。JASRAC は世間イメージが悪すぎて、回り回って無名クリエーターの収入の不安定化に繋がっている。本腰を入れて戦略的にイメージを向上させるべきである。
- 発表する機会、チャンスはいくらでもある。やるなら著作権事業者らしく、著作権料率などビジネス的知識や著作権侵害の知識を浸透させる方がいい。公立の音楽の授業とかにはいりこむとかでもいい。支援どうこうよりもまずは著作権管理事業者として、サブスクの料率など海外と比べて低すぎるのはないか？利用者に対して迎合しすぎてないかよく考えてほしいです。
- まずは、音楽業界全体が勢いを取り戻して、とにかく経験が積める現場が増えることが必要かと。小規模ながらきちんとギャラが出る、若手が入り込めるような現場が減ってしまった気がする。一度失敗するとキャリアが終わってしまうような状況だとなかなか育たないでしょうね…
- このアンケートの内容も、音楽業界へどう関わっているかによって、意味がある様な、全く無い様な？特にポップス系の音楽で得られる収入が激減してこの世の中で、目指したい若者がどれほどいるのかも正直疑問。形だけのアンケートはいらないよね。
- 社会的信用を得られる状況に向かうのが一番かと。引っ越しで新居決めるのでさえ、「職業:音楽制作者」というだけで大家から NG で数件不動産回されたり、現状法人化とかしないと、銀行にまともに相手されないと、色々ありますからね。
- 本当にやる気があるけどお金がない という人に支援するべきである。例えば作家事務所で面倒をみている等、第三者の意見を参考にして支援するべきでは？でも事務所がその制度を利用して利益を上げるのが目的になりかねないので注意は必要であるが。条件等もつけて本当にクリエーターたちが自立できるように支援してあげることは必要であると思う 現に作家志望の若者は減ってきてると思う。そもそも CD が無くなても印税が稼げるメディアというものが確立されないと夢の印税という魅力がないし夢が現実化しません。配信による分配率を国内と国外で分けるとか、日本国内でしか売れないが国内ではバズっている曲が儲かる対象になるとか、印税で生活できるくらいに収入にならないとクリエーターは増えないとと思う。
- もしも実施していただけるなら JASRAC の方での PR 活動や支援などがあれば本当にありがたいのではとおもいます。

- 演奏や制作楽曲のクオリティーを上げることは当然として、音楽を続けるにはどうして行くべきなのか？を考えて活動して行かないといけないと思います。音楽の収入だけで生きて行くのが難しい現状を受け入れて、その上でどうして行くべきなのか？を考えないといけないと強く思います。
- 支援のシステムが制度として一定程度整った段階で、若手クリエーターやクリエーター志望者達が厳しい利用条件や制限は出来るだけ無く、遍く利用出来るようなマニュアルを策定していただければと思います。